

本研究は、SNSのプロフィールに設定されるような顔の画像データをもとに、人がどのような相手と良好な人間関係を築く潜在的な可能性があるのかを考察する。出会いの入り口におけるデジタル化が進む上で、相手がオンライン上にあげたプロフィール画像から自分と相手の相性を計算処理するシステムの構築を行う。画像分析を行い、表情データ、顔のパーツデータ、および印象データをもとにどのような相手に魅力を感じ、長く良好な人間関係を築くことができる可能性を秘めているのか判断する因子の考察を行う。

研究背景

- 交友関係の入り口としてSNSを使用するようになっている。
プロフィール、プロフィール画像で情報開示、情報取得をしており、
画像は本人のイメージを取得するのにもっとも有効な手段である.[1]
- 人は考えや、顔が似ている人を好む.[2]
長年一緒にいるカップル、夫婦は顔が似ている傾向がある.[3]

日本のSNS利用者: **7523**万人

ICT総研 2019年度 SNS利用動向に関する調査

 pairs	1000万人
 tapple	450万人
 Omiai	430万人

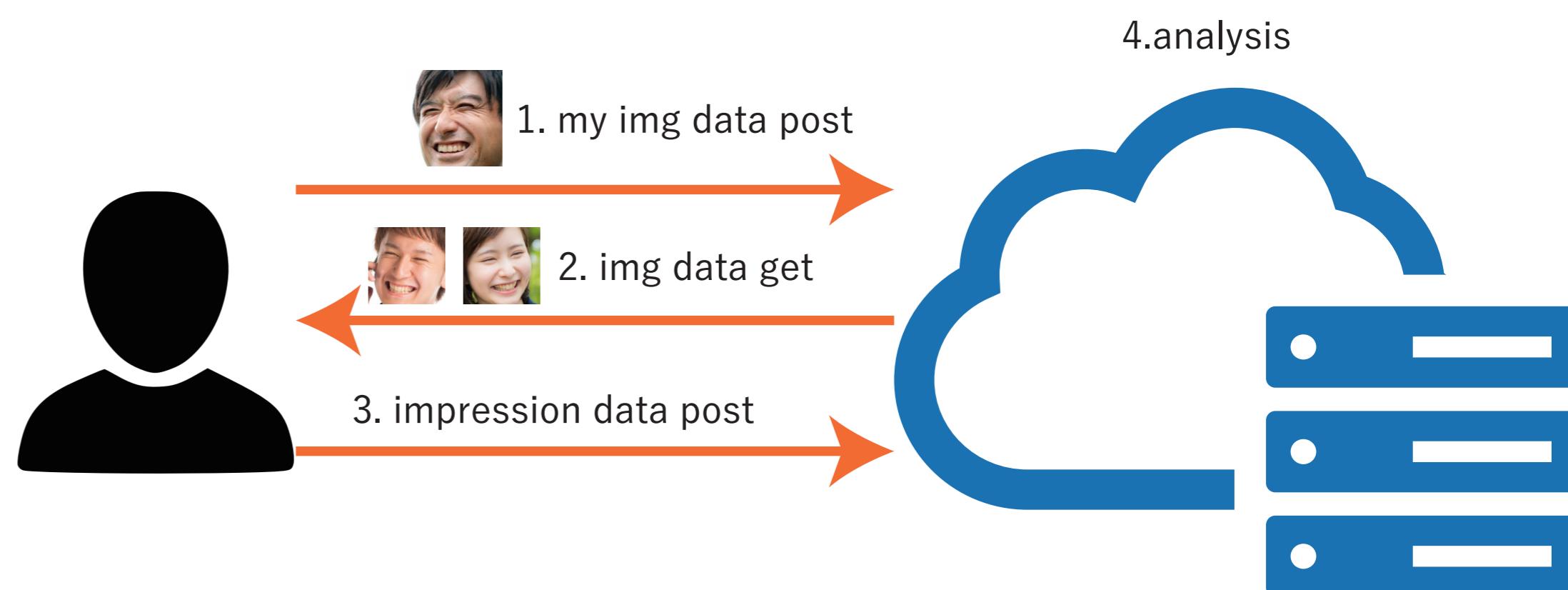
マッチングアプリ登録者 上位3種類



雰囲気や仕草、表情が似てくる

アプローチ

画像分析を行い、複数枚の顔の画像を表示する。
画像から受けた印象データをもとに人がどのような相手に惹かれ、
良い関係性を築くことができる可能性を秘めているのかを
判断する因子を見つける。



問題意識/仮説

問題意識:
本当に相性の良い友人、パートナーと出会えているのかが不鮮明。
プロフィールだけで相手を選んでいることになる。

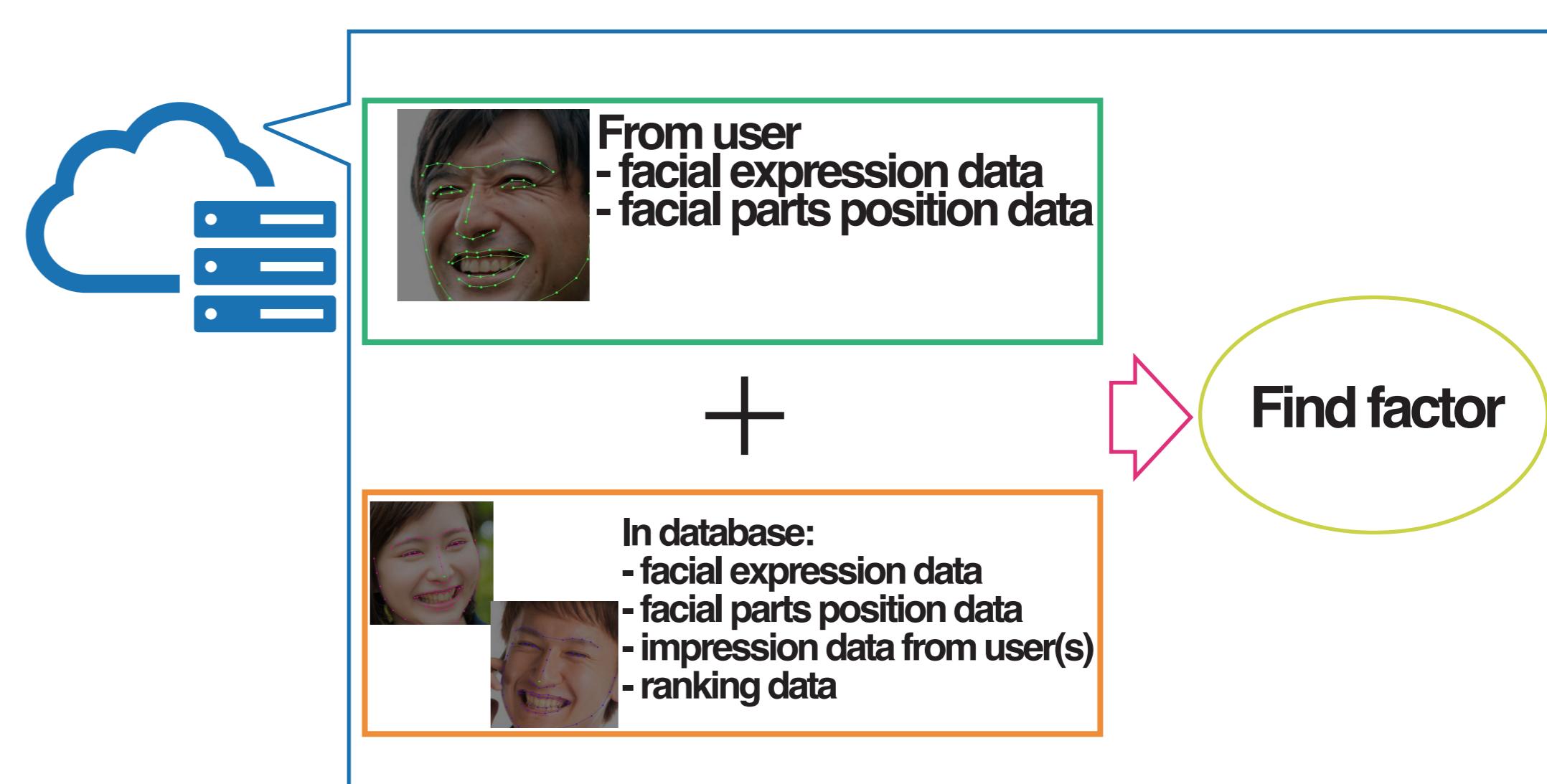
仮説:



“似ている人同士は良好な関係を気づくことができる”という仮説

評価

表情データ、顔のパーツデータ、ユーザーからの評価データ
を使用して評価を行う。



実装

システム構成図:

